

POST-MOVIE

(あ) 当時8才(小学3年生)横濱

(い) 玉電に乗った。現物を見たことはないけど、1969年におぼろ「玉電が廃止になった」ときいた。それから1993年に玉電に関する本が書店に売られたのでよみました。さうして玉電は現在でも東急世田谷線は専用軌道の部分で生き残っている。世田谷線は今は玉電時代車輛は廃車は47両あったけれど、世田谷線に乗ると、玉電のころの玉電の車両が数台あった。世田谷線に乗った。私か8才ころの日本の電車を思い出すと楽しくなる。尚2009年に玉電の展示を思い出して冊子を買いました。

(う) 61才 横濱市

Setagaya Chronicle 1936-83



69歳 山形

POST-MOVIE

映像を見ながら、たぐさの解説と頂き想像も加え、よりリアルに体感できました。後ろに写っている風景と今の風景を比べ、今も残っている景色がところどころ見ることができ、感慨深い思いました。(10年位世田谷に居住) たぐさのたぐさの思い出話も新しい視点の気づきもとても楽しい時間でした。ありがとうございました。

No.65

『消え行く玉電』

昭和44年2月-5月11日 | 池尻大橋、桜新町、三軒、三軒茶屋など | 7:38 | カラー | 東急電鉄職員が撮影した、廃線直前の玉電。

59才 千葉県

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

(あ) 昭和40年代初め頃、群馬・高崎市

(い) 週末を利用して東京へ行った時の記憶です。

井ノ頭線の渋谷駅の改札を出て、山手線の改札口に向かっていると、右側に玉電の渋谷駅があり、電車が進入して来るころでした。同駅周辺の周辺はたくさんの人でにぎわっていました。最近の日が近かたからでしょうか。残念ながら、私は玉電に乗ったことはありません。

(う) 69歳、世田谷在住

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

POST-MOVIE

(あ) 28才

(い) 映像を観て——ごくごく私的に撮った8ミリ作品の4本、皆で向かって、時代と思い出をそれぞれの意見交換は楽しい時間になることが学ぶことを知りました。おぼろのたぐさの「おぼろのたぐさ」の生きたまのビデオに「おぼろ」。

路面電車——昭和44年、東京市電(昭39)が終って約5年、バス社会(マイカー時代)が押し寄せ、日本中の路面電車は「じゃまかい」扱いが増え、廃車解体軌道(丸)撤去の憂目になり、東京の街の新時代化より、24(2)の音が探った。荒川線と世田谷線は専用軌道があったため残り残ったものの都会のすみこに「おぼろ」になった。山手線と地下に、地上線は「おぼろ」路面電車に「おぼろ」。

(う) 52才 世田谷在住

世田谷クロニクル

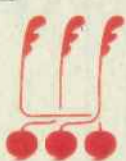
Setagaya Chronicle 1936-83

キャプチャー画像 No.65 | 消え行く玉電 | 1969 (昭和44) 年2月-5月11日 | 池尻大橋、桜新町、三軒、三軒茶屋など | 7分38秒 | カラー | 東急電鉄の運転士が非番の日に撮影した廃線直前の玉電。モニターセッションの音が通り、「シャマ電」と撮影されていた頃の床面。花電車には「ながい間ご利用ありがとうございました」というお礼の言葉が、白い手袋をはめた職員が、隣接のカメラ陣に向けて車内から手を振っている。



穴アーカイブ: an-archive

記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在(穴)から捉え直す反(an)アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30~50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、くらしに光をあてる。2015年から始動。



せたがやアカカブの会 The setagaya akakabu circle

穴アーカイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ隔月で開催。開催予定・上映内容は、生活工房HPまたは「お問い合わせ」からご確認下さい。一見さん大歓迎。本誌「かぶうずら、やまいもうなぎ」は、当会の断片的・公式活動記録。

穴アーカイブ: an-archive

せたがやアカカブの会 vol.34 (ハガキと対面のハイブリッド)

開催方法: アカカブの会々員に郵送した返信用ハガキに回答・返送してもらいました

開催日時: 2023年3月18日(土) 14:00~15:30

ハガキ募集期間: 2月8日 - 3月7日

回答数: 23名 (ハガキ4名 / 対面19名)

- 13才 世田谷区 弦巻
- 玉電 タルボ型、大好きでした。<sup>(忘れと)</sup> 乗ってくるフラッグがかわいい。なくなると時は悲しかった。今はなし。お店もなくなり、なつかしかったです。  
[思い出も 懐きの香りも すがすがしいか]
- 67才 大田区 西横谷

No.63

「消え行く玉電」

昭和44年2月-5月11日 | 池尻大橋、桜新町、三宿、三軒茶屋など  
7:38 | カラー  
東急電鉄職員が撮影した、廃線直前の玉電。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

- まだ生まれていない
- 当時世田谷に住んでいたころ、母親から親しみにこもった「玉電」の言葉を聞いたことある。思い出した。今日はじめて「玉電の物語」話を聞いて、それだけ皆に親しまれていた電車なのかなと想像した。題名に何やら「消え行く」という言葉が
- 49才 世田谷区若林在住 何重にも重なる感じがする。

No.63

「消え行く玉電」

昭和44年2月-5月11日 | 池尻大橋、桜新町、三宿、三軒茶屋など  
7:38 | カラー  
東急電鉄職員が撮影した、廃線直前の玉電。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

- 7歳(?) 桜新町
- 父に連れられて見に行った玉電最後の花電。当時はバスを利用することが多く乗車時の記憶がほとんどありません。地下鉄が通るのことは知りませんでした。
- 61才 桜新町



世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

- 当時17才 世田谷区 弦巻
- いっぱり有りすぎで話しつめてしまえばいいのならば明日の午ごろまで話せませう。なにせ小学生～高校生までです。あの玉電の運転手さん達はその後どうなったのでしょうか？  
それ、代駕のバスの運転手さん達はどうか？  
それ、電車のユレは？  
私も玉電の復活を望みます。
- 69才 大田区

No.65

「消え行く玉電」

昭和44年2月-5月11日 | 池尻大橋、桜新町、三宿、三軒茶屋など  
7:38 | カラー  
東急電鉄職員が撮影した、廃線直前の玉電。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

- 当時、中学1年生 おと。世田谷在住 (世田谷線沿線)  
d. 大橋の東邦病院(前の建物)に途中、大橋車庫の出入りかよか。定時運行がまよるなので、雨車同士が大橋、田山通りとの交差点で右折車両が軌道敷を越え、雨車は踏切、信号を無視して通過した。  
玉電廃止後、新五川線南側に、ちやうどバスで代行へ通学(このバスが大橋まで、12分ほど乗りました)。点と点を結ぶ高層鉄道(郊外電車)と違い、小さな駅と駅を商店街、駅まで歩いて行くこと、軌道敷の家や畑、田舎。
- 母下 若林在住

No.67

「消え行く玉電」

昭和44年2月-5月11日 | 池尻大橋、桜新町、三宿、三軒茶屋など  
7:38 | カラー  
東急電鉄職員が撮影した、廃線直前の玉電。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

- 12才 埼玉県浦和市(当時)
- 時々横浜の祖母の家に行くと、すぐ目の前が「電車通り」で路面電車が走っていたことを思い出す。映像では、道路を走るダンクカーやオート三輪?や、木材を山のように積んで先端に赤い布を下げたトラックなどに既視感が。
- 65才 横浜市在住

No.67

「消え行く玉電」

昭和44年2月-5月11日 | 池尻大橋、桜新町、三宿、三軒茶屋など  
7:38 | カラー  
東急電鉄職員が撮影した、廃線直前の玉電。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

- (あ) まだ生まれていません
- (い) 学生時代には京都市電(荒川線)に乗っていたことを思い出しました。半世紀前の玉電の運転席からの景色も一部、15年前の荒川線の京に似ており、高層ビルが懐かしい感じがしました。この映像が撮影された当時は生まれていませんが、記憶にある昭和の最後の頃の風景は、たしかに懐かしいです。(昭和60年(1986年)頃)
- (う) 杉並区在住 / 37才



世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

- 当時はまだ産まれて来ていません
- 今と違ってカラフルでずいぶんかわい電車!!! というのが第一印象です。それが「京マ電」と言われていた事、背景、色合いとまた違う印象で、とても面白い時間でした。現在、電車に乗ると私の場合、双赤電、と聞いて、寝てしまったり、当時は何かに過ぎっていたのか気がつきます。
- 25才 葛飾区



世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83